



航空機による 墓参(国後島)に参加して!

令和元年
8/10(土)

副支部長
重松 麗子(国後島出身)

この度、航空機による北方領土墓参への参加希望調書が届き、墓参候補地が泊墓地という事で申し込みを致しました。かねてより、祖父の眠る墓地への墓参を希望しておりましたが、これまでロシア側の立ち入り許可が出ず、泊墓地の墓参は実現しませんでした。今回の空路墓参で泊墓地の墓参が叶い、祖父に手を合わせる事が出来ました。航空機による墓参は、歩行に不安のある私には、移動も短時間で身体への負担も少なく大変良かったです。

私は、二歳から六歳まで泊村で生活しており、小学1年生だった昭和20年8月に終戦を迎えましたが、9月に入るとソ連軍が島に侵攻してきました。

今でも我が家に侵入して来たロシア兵に急に抱かれて、あまりの恐ろしさに泣いた記憶を今でも鮮明に覚えています。

それから間もなく私たち家族は、島を脱出する漁船に便乗させて頂けることとなり、尾岱沼に向かうこととなったのですが、漁船には積み荷が多く、船が傾きだしたので、島に引き返し、我が家の家具を降ろし父親が残ることとなりました。それから3か月後の12月に父はようやく尾岱沼に逃れてきました。祖父は、昭和20年6月に亡くなり、泊墓地に埋葬されております。

あれから74年たった今も島は返還されず、政府による領土交渉も進展しないなか私たち元島民も多くの方が他界し、平均年齢も84歳を超えています。

私も80歳を過ぎ、体力的にも船舶での墓参は断念せざるを得ない中での今回の航空機墓参では、前々から待ち望んでいた泊墓地で祖父の墓前に手を合わせる事ができ夢のような出来事でした。

一方で、これまでロシア側から許可されていない墓地での墓参が実現することを切に願うところです。

高齢化が進む元島民の人道支援策として、この航空機墓参が継続されることを期待するとともに、四島で眠る親族の墓参りが自由に出来る日が一日も早く来ることを願い、私も力の限り返還運動の先頭に立って頑張っていきたいと思っております。



ビザ無し訪問「後継者の船」に参加

青年部長 舘下 雅志



色丹島景勝地マタコタン

8月23日～26日、3泊4日で色丹島にビザ無し訪問をして参りました。「後継者の船」は平成18年からスタート、18年は国後島に5年間「共住」と言うテーマの中で、文化・国籍・土地・通貨・雇用・医療・年金・環境等について話し合いました。平成23年から択捉島に8年間4回訪問して、日本文化の紹介や日本食の発表等で交流を深めました。本年度は色丹島で5年間交流を始めるにあたり、20数名のロシア住民と話し合い「観光」と言うテーマに決まり、次年度より意見交換をします。色丹島はアイヌ語で美しい島と言われている様に、多くの観光スポットがあります。次年度に向けて、観光について調査・研究をして行きたいと考えています。

我々の固有の領土の為に……。

編集後記

新時代の幕開けとなった今年こそはと期待した領土交渉では大きな進展がなく、ロシアの実効支配を誇示する姿勢がより鮮明となっており、平和条約締結に向けた具体的な道筋は見えないままである。

本年度の北方領土ビザなし訪問(自由訪問、墓参、ビザなし交流)も9月23日に帰港した自由訪問で全て終了したが、日本側が希望した地域への訪問が認められなかったり、北方四島での監視や規制を強化する事例が相次ぎ、来年度以降の訪問実施に向けて暗い影を落とした一年でありました。

政府には、高齢となった元島民への人道的措置として、四島往來の負担軽減や訪問先の拡大に向けて交渉を進めていただくよう切に願うものです。

北方領土返還への道程は大変厳しい現状ですが、諦めることなく、後継者の人達と手を携えて返還要求運動を継続すること政府を後押し、四島の早期返還を実現しましょう。
(事務局長 松本)



千島歯舞諸島居住者連盟中標津支部通信



Vol.8

発行日/令和元年11月1日

題字/宮脇 田鶴子

発行者/千島歯舞諸島居住者連盟中標津支部

〒086-1197 北海道標津郡中標津町丸山2丁目22番地 中標津町役場内
TEL(0153)73-3111(内線525)・FAX(0153)73-5333

第9回北方領土返還要求中標津住民大会終了!



8月10日(土)、「第63回なかしべつ夏まつり」の会場で午後2時30分からステージ前に約700人を超える町民の参加のもと「中標津住民大会」が開催されました。

大会では、脇千島連盟理事長から、「返還運動の継続意義と次世代への継承が重要で、元島民の故郷への思いを一日も早く実現したい」との力強い挨拶を頂き、来賓者11名を代表して西村町長、中司道議のお二方から激励の言葉を頂きました。

大会最後に青年部の篠田 卓さんによる「四島よ還れ」のシュプレヒコールを来場者全員で声高々に行ったあと、恒例となっている「北方領土返還要求ビンゴ大会」を青年部の全面協力のもと盛大に行い、住民大会を終了した。

また、会場内で10～11日の2日間、支部役員の協力を得て署名活動を行い、1,032名の方々から署名をいただきました。



第11回北方領土語り部&寄席inなかしべつ終了!



本年度の「北方領土の語り部&寄席inなかしべつ」を7月18日(木)、午後7時から総合文化会館コミュニティホールで約240名の来場者により盛大に開催されました。

本年度で11回目となる「語り部&寄席inなかしべつ」は会場を総合文化会館に変更し、元島民2世でもある三遊亭金八師匠による北方領土や最近の社会問題を絡めた噺と古典落語を披露し、会場の笑いを誘っていました。

寄席に先立ち行った後継者による「語り部」では、元島民2世で支部青年部副部長の田中晴樹氏により、領土交渉の歴史や課題、青年部の活動内容等を織り交ぜながら、元島民の故郷「北方領土」への思いを伝える事ができました。

終演後、恒例となっているお楽しみ抽選会では、金八師匠も加わり、会場全体で北方領土返還要求運動の相互理解を深めることが出来ました。事前の準備から当日の運営まで主体となって実施頂いた青年部の皆様へ感謝申し上げます。また、会場入口には署名コーナーを設け、138名の方々から署名をいただきました。



支部長日記 最後の四島訪問

支部長 佐藤 健夫(水晶島出身)

今年、墓参と自由訪問の2回、四島を訪問した。自分としては、これが最後と決めての訪問であった。82歳になり、衰えを自覚するようになったのがその理由である。「何事にも億劫になった」、「よく忘れ物をする」、「よくつまづく」。無理をして皆さんに迷惑をかけたくないと思ったのです。今回、執筆の機会を得たので、思い出すままに2回の訪問について感想を記してみたい。

墓 参 [7/26~7/29]

墓参地：水晶島(茂尻消墓地・ポッキゼンベ墓地・秋味場墓地)
色丹島(能登呂墓地・キリトウシ墓地・相見崎墓地)



色丹島の相見崎です。湾の中ですので波も穏やかです。この地域には、今は誰も住んでいません。

この度の墓参を希望したのは、私が水晶島のポッキゼンベ(税庫前)の生まれで、これまでに生まれた地に行けなかったため、せめて近くまで行って、その現状を見てみたかったのです。

前回(平成26年)は、行く直前にロシア側の都合で中止となり、無念の思いを経験していた。そのため、今回も大丈夫かとその直前まで心配していたが、水晶島の沖で出入域手続きも出来たし、水晶島の予定した3ヶ所の墓参も無事実施することが出来た。

天候は霧がかかり、良い天気ではなかったが皆さんカッパを着て、長靴をはき、道路のない草地を頑張って歩いた。今となっては墓石もほとんど無い

が、墓標の近くに祭壇を作り、みんなでお参りして、その地に眠る御霊をお弔いすることが出来た。

色丹島については、能登呂、キリトウシが高波のため上陸が中止となり、湾の入り江になっている相見崎のみ上陸することが出来た。

先発隊が7、8人、少し内陸にある墓地を探すために坂を登っていったが、気温が高く、草も伸びていて相当難儀が予想された。案の定、時間が経っても帰って来ない。先に帰って来た人達は、『見つからない。難しい。大変だ』と告げる。団長の指示のもと、海岸近くに祭壇を作り拜むことにした。

結局、6ヶ所中4ヶ所に上陸出来、66%の達成率となった。

自由訪問 [8/2~8/5]

訪問地：国後島(白糖泊・礼文磯・乳呑路)



国後島の礼文磯に上陸した3人。これから散策に出発です。左から、妻友子・孫健吾・私佐藤健夫。

3年ぶりの古里訪問である。3年前は神戸にいる息子(55歳)と一緒にだったが、今回は最後ということで妻と釧路の孫(22歳)と一緒にの訪問であった。

8月2日の夕方、白糖泊に向かう途中、爺爺岳が夕陽に照らされて美しく見ることが出来た。『明日は天気だ』と確信した。案の定、3日の朝は晴れ、デッキに出ると雄大で美しい爺爺岳が、その全容を現していた。『やっぱり素晴らしい。来て良かった』と心から思った。きっと、孫の心の中にもその姿は残っていくであろう!

時間が来て、3人一緒に礼文磯の浜に上陸し歩いた。親子熊が私達の姿を見て逃げて行くのが見えた。3年前にも熊を見ているので、確実に増えているのであろう。散策の時間は皆さんととにかく歩いた。笹をかき分け、小川を渡り、坂を登り、歩きに歩いた。二度と来ることがないと思うと張り切って足を動かすことが出来た。

しかし、いくら歩いてみても昔の面影は何もなく、唯一変わらないのは爺爺岳の姿であった。私としては爺爺岳の姿を見れば50%満足であった。

最後に上陸した乳呑路は、さすが留夜別村の中心地だけあって、平地が多くどこに何があったか説明を聞いて納得することが出来た。四島の訪問を終えて思うのは、もう少し楽に行けるようになって欲しいということ。

日程、交通手段、上陸地点の確認等、もう一度検討をお願いしたい。

青年部活動報告

北方領土返還要求後継者キャラバン隊への参加



北方領土返還要求後継者キャラバン隊が8月23日から26日まで秋田県秋田市に派遣され、当青年部から2名が参加してきました。道内10支部から21名、富山支部から2名、事務局2名の総勢25名でキャラバン隊を編成し、8月24、25日の2日間、「秋田市民交流プラザ」で北方領土写真パネル展を開催。

また、同会場で署名活動を行うとともに、根室管内の特産品が当たる「北方領土ビンゴ」や「北方領土クイズ」を行い、領土返還要求の国民世論の高揚と領土問題の解決に向けた啓発活動を精力的に行ってきました。

最終日の26日には、秋田県庁と秋田市役所を表敬訪問し、協連盟理事長のメッセージを伝達しました。



後継者活動促進全国セミナーへの参加

10月26日(土)~27日(日)の2日間、札幌市で開催された千島連盟主催の「後継者活動促進全国セミナー」に中標津支部青年部から4名が出席してきました。

これからの領土返還運動には、元島民居住者の方々の高齢化が進むなか、後継者活動の充実と育成強化が重要となります。

後継者の皆さんの積極的な参加を是非お願いします。



INFORMATION これからの支部事業のご案内

2月 は 北方領土返還要求強化月間

「北方領土の日」特別啓発事業の実施

「北方領土の日」特別啓発事業として、「第45回なかしべつ冬まつり会場(しるべつと町民ホール)」において2月8日~9日の2日間、署名活動を行います。会員皆様のご協力宜しくお願いします。



「北方領土の日」根室管内住民大会の開催

令和2年2月7日に根室市で「北方領土の日」根室管内住民大会が開催されます。大会には、管内1市4町の次世代を担う中学生による弁論発表とアトラクションが予定されており、毎年、各町から多数の方が参加されています。当日は、中標津町から送迎バスが運行される予定ですので、後日改めて会員の皆さんに参加案内を送付致します。

